

注：指示があるまで開けないで下さい。

総合防犯設備士資格認定試験

第一次試験(筆記方式)

C専門問題（選択）	
出題	4問中2問選択
時間	60分
配点	1問100点・合計200点

受験番号	— —
氏名	

注意事項

1. 座席は指定されています。受験番号を確認して着席して下さい。
2. 机の上には「受験票」「筆記用具」「時計」以外のものは置かないで下さい。
3. **受験番号・氏名は、はっきりと記入して下さい。別紙図面にも受験番号・氏名を記入して下さい。**
4. 解答は、設問にしたがって記入して下さい。
5. 「試験問題」「解答用紙」は試験終了後すべて回収します。
6. 試験時間内に退席される場合は、試験問題・解答用紙を机の上に置き試験官の許可を得て静かに退席して下さい。
ただし、試験開始後30分、および試験終了前10分間は退席できません。
退席後、試験会場近辺では、静かにお願いします。
7. 試験会場においては、試験官の指示にしたがって下さい。



C 専門問題（選択）

問題－1（機器関連）

出入管理システムに用いられる個人を識別するための情報としていくつかの種類があり、出入管理システムではこれらの情報を認識（読み取り認証）して照合し、出入の可否を判定している。この認識（認証）の方式を3種類あげ、それぞれについて以下の事項について記せ。

- (1) 認識（認証）方式の概要
- (2) 認識（認証）方式としての長所と短所
- (3) 出入管理システムの認識（認証）方式として採用する上での留意点

解答欄(1/2)

① 認識（認証）の 方式	
事項	内容
認識（認証）方式 の概要	
認識（認証）方式 としての長所と短 所	
出入管理システム の認識（認証）方 式とする上での留 意点	

C専門問題（選択）

問題－1（機器関連）

解答欄(2/2)

② 認識(認証)の方式	
事項	内容
認識(認証)方式の概要	
認識(認証)方式としての長所と短所	
出入管理システムの認識(認証)方式とする上での留意点	

③ 認識(認証)の方式	
事項	内容
認識(認証)方式の概要	
認識(認証)方式としての長所と短所	
出入管理システムの認識(認証)方式とする上での留意点	

C 専門問題（選択）

問題－2（施工関連）

ある工場（別紙図面）の G1-1（敷地外周警戒線）に多段式の赤外線ビーム検知器を全外周に設けて侵入検知をする。

維持管理も念頭において、赤外線ビーム検知器を施工するにあたり留意すべき点を解答欄の項目区分に沿って 10 項以上記せ。ただし、配線工事は、電気設備工事とし、供給電圧・容量・絶縁抵抗値などは、満足いくものである。フェンスなど構造物の構造は変えない。

別紙図面は、設備配置プロット図である。

<施設・設備の概要および運用条件抜粋>

当該工場は、30 万人都市郊外の山間部に新しく開発された工業団地内に位置する。冬場、降雪は皆無だが、降霜は相当みられる。また一年を通じて相当濃い霧の発生もみられる。イタチ、狸など小動物の姿も見かけることが多々ある。

この工業団地には、同規模の分譲敷地が約 100 区画ある。現在稼働中のもの 10 施設、建設中のものが 12 施設。生産工場や物流施設の誘致が期待されている。夜間、本工業団地内の往来は殆ど無いが、暴走行為を繰り返す若者が出現することがままある。

当該工場は、高級食品の加工工場である。食品加工にとどまらず、食材の最先端加工技術、新商品の開発や研究に積極的に取り組んでいる。24 時間稼働をしている。事務・研究部門の勤務時間は、休業日を除き AM9:00～PM6:00 である。

「食の安全安心企業」のイメージを保つため、敷地内外の環境美化には特別な配慮をしている。敷地外部からも構内が見渡せるように、敷地外周には高さ 1.2m の高強度アルミ合金製フェンス（タテ格子ピッチ 15cm）を設けている。構内（緑地部）の植栽は、全て針葉樹で茎径は直径 10～15cm 程度、高さは 3～4m 程度。GL から 2～2.5m くらいまで枝打ち・剪定をされており、防犯上の視認性確保には配慮している。

G1-1（敷地外周警戒線）での侵入検知は、赤外線ビーム検知器（2 段）を全外周に設けて検知する。また、G1-1 や G1-3 の監視にはモーションディテクタ（VMD）機能搭載の防犯カメラシステム（カメラ 9 台・図中 M 記号）を併設し、不審者に対し二重の監視システムをとっている。構内の人や車両の往来等を視るためのコンビネーションカメラ（PTZ 機能搭載 9 台・図中 C 記号）も監視システムの補助システムとして稼働している。

以上

C専門問題（選択）

問題－2（施工関連）

解答欄

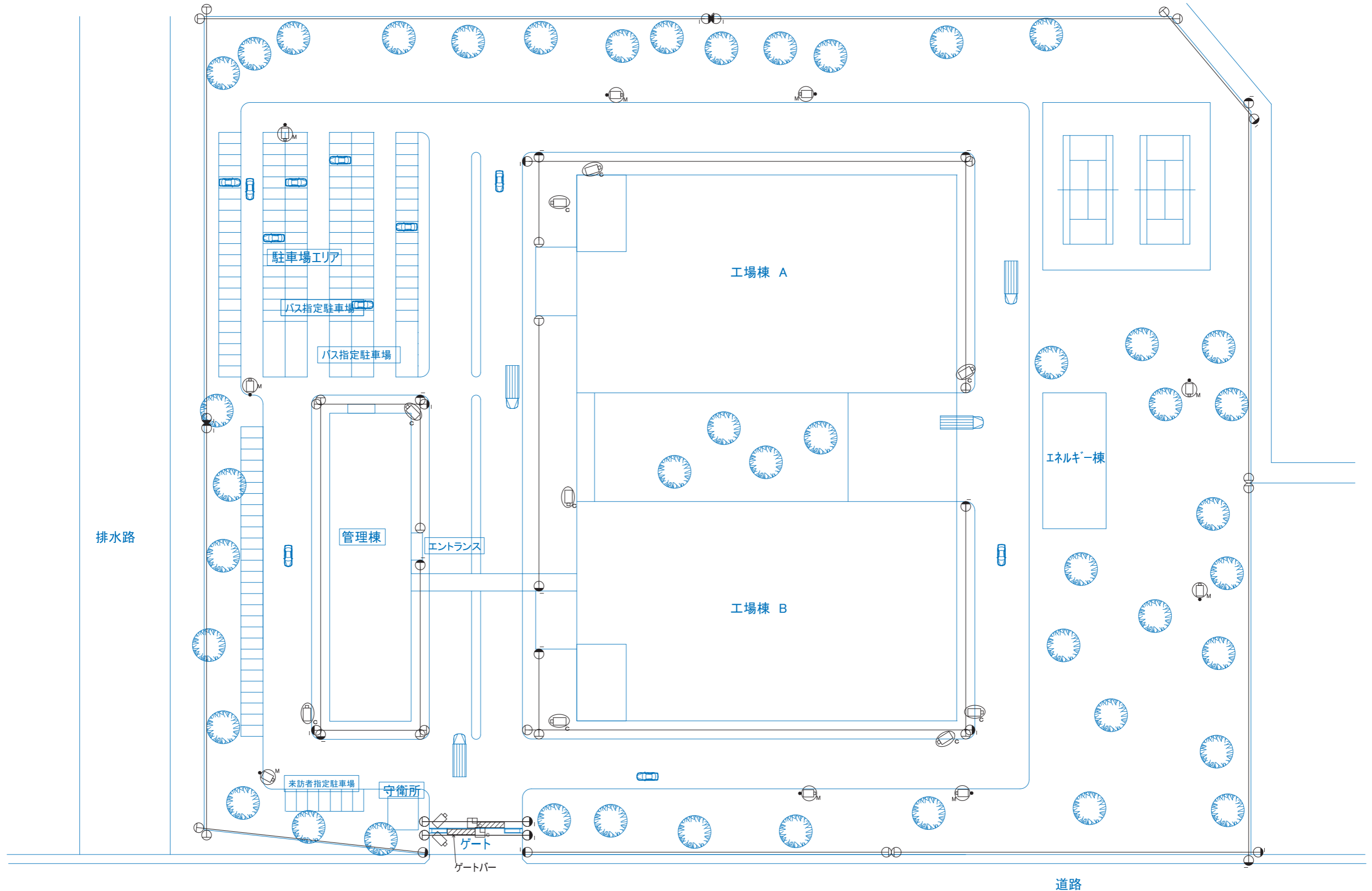
①	<u>検知器の配置・位置決めについて</u>
②	<u>取り付け、結線について</u>
③	<u>検知器の光軸調整について</u>
④	<u>降霜、濃霧による誤報対策について</u>
⑤	<u>小動物などによる誤報、侵入対策について</u>
⑥	<u>調整・試験・取り扱い説明について</u>

【C専門問題(選択)問題一2】【工場配置図】



受験番号 _____

氏名 _____



C 専門問題（選択）

問題－3（警備関連）

- (1) 以下は、警備業法、第五章 機械警備業第四十条の条文である。下記条文中、「次の事項を記載した届出書」に記載すべき事項を解答欄に記せ。

（機械警備業務の届出）

第四十条 機械警備業を営む警備業者（以下「機械警備業者」という。）は、機械警備業務を行おうとするときは、当該機械警備業務に係る受信機器を設置する施設（以下「基地局」という。）又は送信機器を設置する警備業務対象施設の所在する都道府県の区域ごとに、当該区域を管轄する公安委員会に、次の事項を記載した届出書を提出しなければならない。この場合において、当該届出書には、内閣府令で定める書類を添付しなければならない。

解答欄(1/2)

①	一
②	二
③	三 前二号に掲げるもののほか、内閣府令で定める事項

- (2) 機械警備業について

- ① 機械警備業務の定義を記せ。（警備業法、第二条、5項）
- ② 各都道府県公安委員会規則による機械警備業者の「即応体制の整備の基準」の内容を記せ。

解答欄(2/2)

①	
②	

C 専門問題(選択)

問題-4 (設計関連)

1. 社会インフラとして極めて重要な防護対象のひとつである 500kV 超高圧変電所の侵入警報システムの設計をすることになった。この変電所では敷地内部の、建物を含む変電施設の周囲(約1km)に二重フェンス(内側フェンスと外側フェンスの間隔は約3m)を設置し、この二重フェンスで構成された範囲を第1警戒線とした。また、二重フェンスの両側は幅約6mの見通しを確保するクリアゾーンが設けてある。この第1警戒線に適用可能な屋外用侵入検知器の種類を三つ挙げ、記入例にならって空欄を埋めよ。

解答欄(1/2)

1. 適用可能な検知器の種類	
①	電界検知器
②	
③	
④	

C専門問題(選択)

問題-4 (設計関連)

2. 上記の4種類の検知器のうち、誤報対策、失報対策などを考慮して検出原理の異なる検知器を2種類組み合わせることで設置することとした。2種類の検知器の組み合わせはいくつか考えられる。その組み合わせとその理由を四つ挙げ、記入例にならって空欄を埋めよ。ただし、当該変電所は非寒冷地域にあるものとする。

解答欄(2/2)

2. 2種類の検知器の組み合わせとその理由	
①	<u>電界検知器と赤外線ビーム検知器の組み合わせは、フェンス警戒と空間警戒なので相互干渉による誤報の心配がほとんどない。</u>
②	
③	
④	
⑤	